

「かけあしの会」にマフラー贈呈 (いばらきコープ)

1月26日、27日に、ポケットファーム・どきどきつくば牛久店にて開催された「どきどき雪まつり」にて、いわて生協マリンコープ DORA 店長の菅原則夫さんが代表を務める復興プロジェクト「かけあしの会」(岩手県宮古市)のメンバーが復興応援商品を販売。いばらきコープ理事長の佐藤洋一さん、専務理事の鶴長義二さん、組合員理事3人や日本生協連職員も駆け付け、販売を手伝いました。

27日には、いばらきコープの組合員が編んだ約100個のマフラーが、いばらきコープ組合員理事から「かけあしの会」に贈られ、後日、いわて生協の共同購入(宅配)で配られました。



マフラー贈呈の様子。

「応援してくれるのが後押しになりました」 (パルシステム東京)

パルシステム東京は、都内で避難生活をおくる方を応援するための「パル・パラソルカフェ」などを、自治体などと連携しながら開催してきました。

1月29日には、新宿区に避難している方で組織された「百人町青空会」が開催する交流会に参加し、お茶菓子を提供しました。百人町青空会会長の山田仁さんは、「百人町青空会主催のイベントは今回が初めてです。今回、生協が応援してくれるのが後押しになって自分達でもやってみようと思いました」と話します。参加者からは、今後の不安に関する声や、感謝の声などが聞かれました。



イベントには約20の方が訪れた。

いわて生協 宮古支部拡大担当 三浦 真さん

ピックアップ! 生協の仲間たち



いわて生協 宮古支部拡大担当 三浦 真さん。

「共同購入が、多くの方に必要とされている事業だと震災をとおして、確信しました。」

そう話すのは、いわて生協宮古支部拡大担当の三浦 真さん。

三浦さんは、2011年4月より、生協への加入をおすすめする「拡大担当」として活躍しています。コープ東北サンネット事業連合*すべての加盟生協のなかで1位の成績を連続で記録。「震災当時は、配送担当でした。津波の被害を大きく受けた地域の組合員さんのことが頭をよぎり、共同購入を必要としている人たちがたくさんいるはず、これはおすすめ活動を頑張らなければならないと思いました」と話します。

「被災地にいらっしゃった県外の方が、『仮設住宅に住んでいる方から元気をいただきました』とおっしゃ

いますが、本当にみんな元気ですね」と笑う三浦さん。

そんな三浦さんも、中学生のときから行なっているバンド活動で歌ったり、趣味のサーフィンに毎週通ったりしてプライベートも充実した日々を過ごしている。「『昔と同じに戻ろう』と意識している人が多いです」

震災直後の「生協さんありがとう」の声を胸に、日々誇りを持っておすすめ活動を行なう三浦さん。「『ふだんの暮らし』をこれからも、支えていきます」とサーフィンで日焼けしたまぶしい笑顔で話してくれました。

*東北6県、9生協の事業連合。